

令和2年度シラバス（芸術）

学番 7

新潟県立新潟北高等学校

教科（科目）	芸術（書道Ⅰ）		単位数	2	学年	1	学科	普通
使用教科書	教育出版「新編書道Ⅰ」		副教材等	なし				
学習目標	書道の幅広い活動をとおり、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。							
指導の重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態に見合った書道教材を考案し、基礎的・基本的な技能の定着をはかる。</li> <li>作品の展示・発表を行い、自分および他の生徒を客観的に評価する能力を伸ばす。</li> <li>課題に対して適切な評価をすることで、次の課題への意欲につなげ、表現領域を広げる。</li> </ul>							
学 習 計 画 50分 時数計70								
月	単 元 名	学 習 内 容						時数
4	オリエンテーション 書の世界へようこそ	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間学習計画、授業内容・方針・評価</li> <li>用具・用材の扱い方、文房四宝、姿勢、執筆法、基本的筆使い・身の周り・生活の中の書</li> </ul>						5
5	漢字の書の学習 ・楷書の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>書体の変遷、拓本を採ってみよう</li> <li>さまざまな楷書、基本用筆の確認</li> <li>楷書の基本を知ろう 九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑の鑑賞と臨書</li> </ul>						6
6	・楷書の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>軽快と重厚 雁塔聖教序と顔子家廟碑の鑑賞と臨書</li> <li>方勢と円勢 牛欄造像記と鄭義下碑の鑑賞と臨書</li> </ul>						8
7	・楷書の学習 ・文化祭作品制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>小字書の鑑賞と臨書</li> <li>蘇慈墓誌銘の鑑賞と臨書</li> </ul>						4
8								
9	・行書の学習 ・文化祭作品制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな行書</li> <li>行書の特徴</li> <li>行書の基本を知ろう 蘭亭序の鑑賞と臨書</li> <li>風信帖の鑑賞と臨書</li> <li>争坐位稿の鑑賞と臨書</li> </ul>						8
10	・文化祭作品制作 ・篆書の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書の制作と鑑賞</li> <li>篆書の特徴</li> <li>泰山刻石の鑑賞と臨書</li> </ul>						8
11	・隸書の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>隸書の特徴</li> <li>隸書の鑑賞と臨書</li> <li>曹全碑と居延漢簡の鑑賞と臨書</li> </ul>						8
12	・草書の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>草書の特徴</li> <li>書譜の鑑賞と臨書</li> <li>書道用語集</li> </ul>						5
1	仮名の書の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮名の成立と発達</li> <li>基本的な筆使い</li> <li>蓬莱切の鑑賞と臨書</li> </ul>						7
2	・仮名の書の学習 漢字仮名交書の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮名の種類</li> <li>平仮名</li> <li>変体仮名</li> <li>連綿</li> <li>高野切第三種の鑑賞と臨書</li> <li>大字による表現と鑑賞</li> <li>意図の応じた表現</li> <li>自分の表現を目指して</li> <li>名筆に学ぶ表現の工夫</li> <li>感動や思いを表現</li> </ul>						6
3	漢字仮名交じり書の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字仮名交じり書の表現と鑑賞</li> <li>硬筆の学習</li> </ul>						5
評価規準	書への関心・意欲・態度		書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力			
	書道の幅広い活動の喜びを味わい、書の文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。		書の良さや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け、表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。			
評価方法	上記の点を踏まえ、具体的に次のようなものを対象にして総合的に評価します。 ・学習活動への参加状況（授業への取組みの姿勢・積極性、準備、片付け） ・提出物（作品、感想文など）							
担当者から一言	・中学校の国語科書写と書道との関係や考え方の違いを理解し、基礎的・基本的事項がしっかり学習にできるように取り組みましょう。							